筆の林（はしめ）

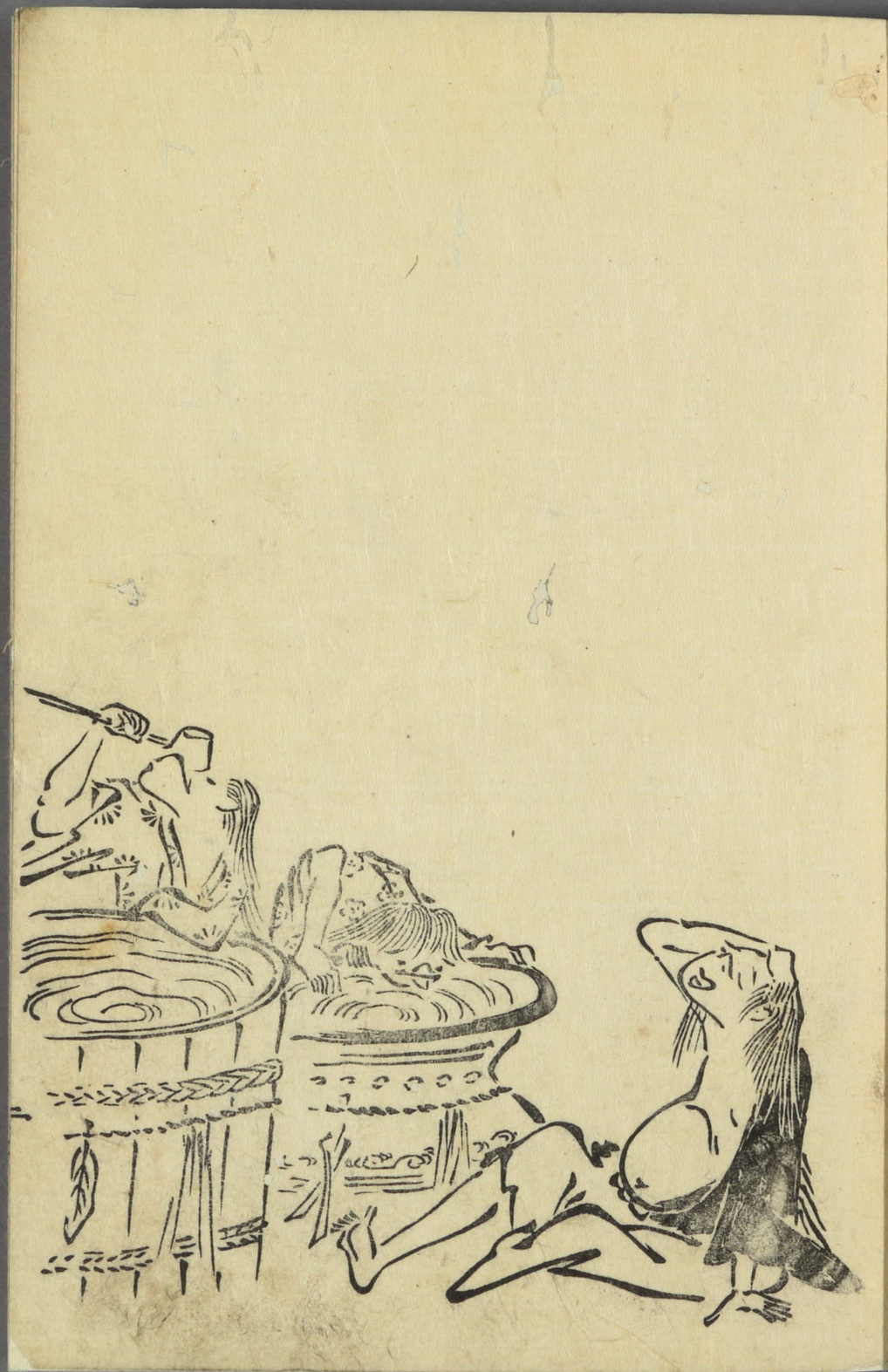
藝志編　安永六年

歳旦

いく歳の渚乃
玉や伊勢ふるみ　東柳窓　燕志

澄の行末日孤
慶多ゝ川の戸　東序

鶯乃夢四方ゝ
和ゝく門告ゝ　東塘



久英画

孟春

芝ゝ多ゝ也　高ゝ山　一万舎　東曉

撫れやすぐ乃　春乃　雲

人もゝ　ものの　燕志

鶴亀ゝ　高ゝ　撫る　右

いつゝ引　まへゝ　細流

嘉節

撫ゝよ　と　敷乃　東和楼　眺隨

庭　高　鶴　屠　ゝめ　や　ゝめ

みや　も　福　寿　燕志

先　ゝ　ゝ　く　ゝ　ゝ

不二見　ゆ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　に　星鳥

新陽

てゝ地のあゝ玉
ゝゝゝ

春は新おほるとやけさの　吟國

年賀　係物屋や　沾卿

初夢のつゝしみ　壁の目のおとなし　梅朔

礼帳こやあつまの　寿来

芋がら

恵方詣　松のあけ　井蛙

福ふくし　茅の　鮀吞

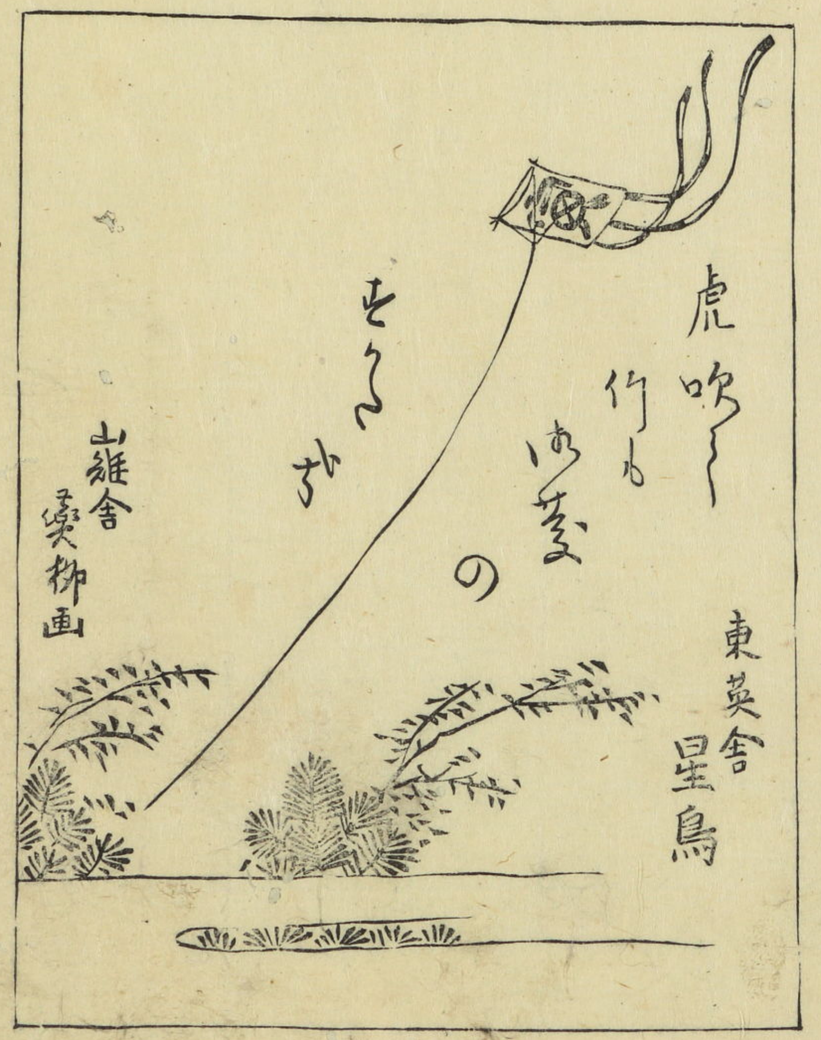
新暦

寂思菴
積翠

生盃や明ぬ春

注連の内外乃清き初霜　燕志

ふる雪神風通ふ毒の香や　東朝


虎吹
竹も
ゆ芽
の
そろふ
東莫舎
星鳥
山雀舎
燕柳画

夢うつゝ
先ゝを初る
うゐゝを
うの邦
涼風舎
艸志
歩龍画

奇仙一順　泉川舎冠十

掛ひとんろ茅や掛ん民の歎　燕志
雪ちる雪ぬ雪ぬ斗の山の端　燕二
多雪ぬ掛鳥門ぬ雪きて　船柳
小ぬ中の高掛きく　仲志
何くるし身ぬ一種の切きみ　古柳
語るもきくも雪ぬ斗の秋

歲旦　松第一や天下泰平
門乃春
身音　ゑくのゑきまゑまや
孫和乃種　春江亭　萬里

歲旦　新年の小川や
歲尾　松京の雪ぬ身の後　千丈楊　梧井

初雞や
天の岩戸
いそのしさ
十三章 石英画
青龍観
東塘

虎の子
あそばや
門の松
十三章
燕川
久英画

春詠

醉月城

花紅子

百千とゝ八重咲奥庭　蘭志

梅の花

弟弱の力ゝ風や光ゝん　花陰

麗景

うゝ寿も笠北　女 尤紅子

日和やうゝ色の春

霞ぬふてふいとも乃糸　燕志

ぬうゝ合ひの方の

水節絶やうゝ　長柳

春吟

物うゝ北東の　女 花暁子

通ふや垣隣

窓ゝへ来る多の鶯　燕志

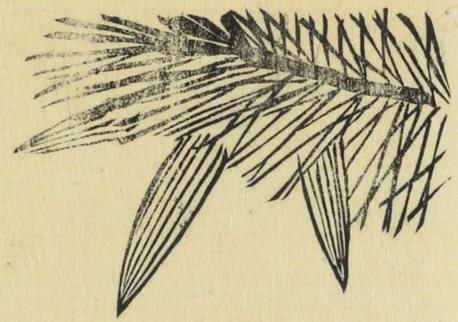
多てぬ世を佐名ゝ

ひ鶯待ぬ雪　燕長

みすぼらしい
拵興ゆ一ぶの矢
東葉舎
五尺
雪嶺画

門松よ花見
彩まる
礼者が
流詠子
燕丈
十四歳
石中女画

雪洞



申年

長生殿裏春秋冨

豐年甘泉

三秀亭李嶠子

ふらく老門餞

ちゝを苦る當燕志

未廣寸法紫苑

種蔭

樓月

大きの
明乃
枝折や
初
鶯乎目

晴柳舎
燕玉

歳旦

[illegible]の芽かしら　石龍

掛乞の間もなく[illegible]　〃

元朝や元[illegible]の諸　岸志

煤掃もあるる日行く身哉　〃

大[illegible]の書の[illegible]　燕井

初[illegible]の[illegible]　〃

大神宮　初[illegible]や二[illegible]の春　船柳

けふも[illegible]間[illegible]ばかりの[illegible]　〃

[illegible]の[illegible]乃[illegible]

山の名[illegible]寶[illegible]　安志

[illegible]て八[illegible]　〃

身の[illegible]の[illegible]　燕恕

初の[illegible]乃神代もかゝや大神宮　〃

[illegible]おもむ[illegible]　丹志

何[illegible]の[illegible]初[illegible]　〃

[illegible]いく[illegible]　林志

松の[illegible]乃[illegible]門の[illegible]　〃

[illegible]　〃　吳雪

琴松菴
燕里
久英画

帆跨亭
東浦
亀白画

[illegible]や[illegible]の[illegible]不二籠[illegible]　連志
[illegible]や　月[illegible]を[illegible]　、
[illegible]旭[illegible]　頭の郷　田柳
[illegible]の[illegible]　身の[illegible]上　、
[illegible]　[illegible]　蛙柳
[illegible]の[illegible]　、
[illegible]の[illegible]　伊勢　露岩
[illegible]　[illegible]　、
[illegible]の[illegible]　[illegible]　扨鳥
[illegible]の[illegible]　、

[illegible]　[illegible]　東朝
[illegible]　[illegible]　大阪　浦雪
[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　[illegible]　湖流
[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　[illegible]　金馬
[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　[illegible]　曙永
[illegible]　[illegible]　、

春い門よ
文の家や
禮机
東州亭
燕示
久英画

ぞうりつる
みのくも
年を
玉のあ
貢月亭
縮波
石賀画

歳旦

曙やいハ十嵩
うけて初うたこ

春興

あ春
はの
や　小和泉
山　乃　花ぶり

歳暮

曙や雪こもこの屋る
ゝ山　賀旭亭　東翠

雞旦

鶏いしこ
こゝの朝
こゝの筆屋も

春日

百こゝ
澤の春
春こゝ

守歳

ちいこ
年　狂こゝ山も
用意　實流舎　東松

實子の

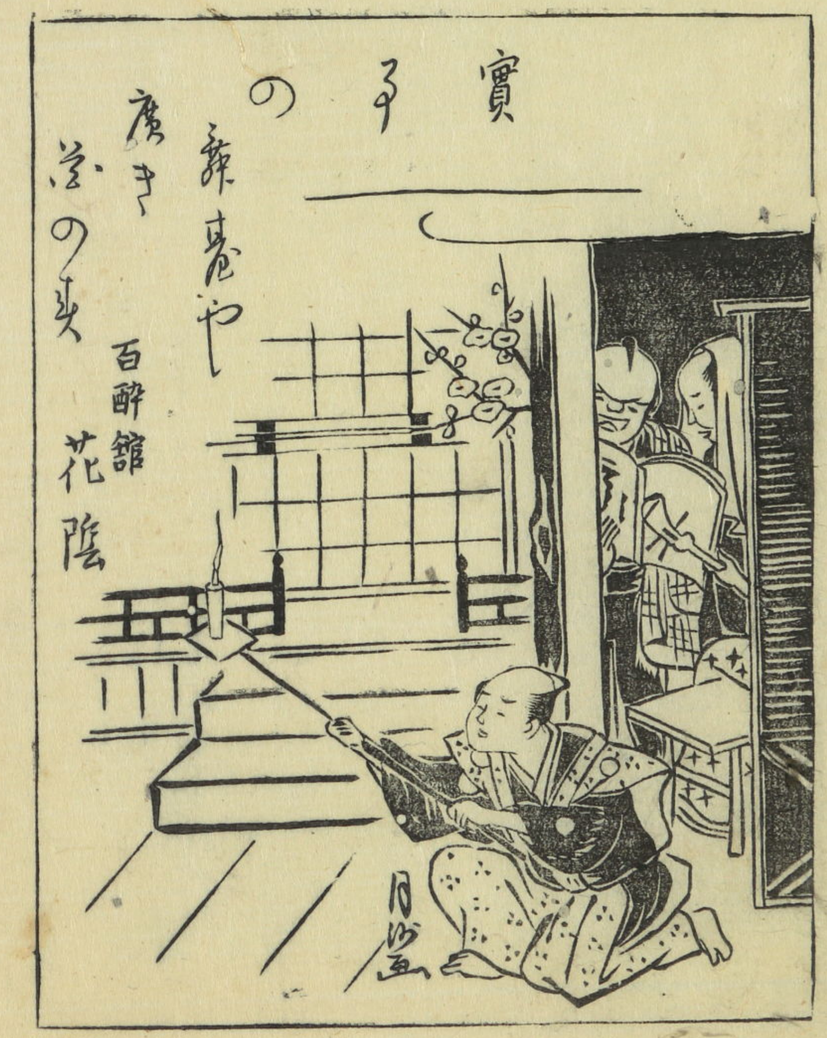
蕪菁や

唐き

法の美

百酔舘

花陰



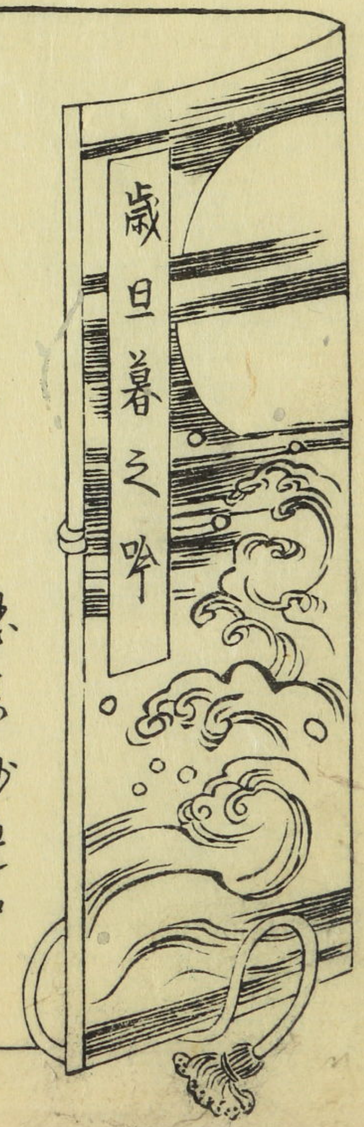
茱萸菴

鳥外

おそ〳〵

鶯のおしくや

そ名の春



喰橘や若菜山を家乃内　専志

来る年も花の蒼やきぬ砧　〃

跡まも春乃初め来る道　守樹

山奥も海の面も師走ぶ　〃

東雲の雲とやとれ花菖　大江

芋煮も京ぶりを半ばしの国　〃

持ち出でぬ炭　来志

家内多く揃ふ吉や年の暮　〃

年寄も国ぶりて蛙一　諧虎　上下翁

ちりも未だかすり傷　〃

歳首

あらたまぬもみどりのこゝろ
ちめやらるる梅を見
ゝこハしさそ

亀白畫

あらしのハ福あり
寿ぐ名も
寿尾

年波のよせるもとゝ
松竹寿

皐月堂
燕流

歳始

いくあもあらめ
時代やまりの日の空　千枝舎 東樹

うち祭の家の春永　燕志

試る壽の字乃
ながとも祝み矣　五尺

明の〳〵や
おりも〻と名ゐ松の名

竜笈亭 東明

子興画

考整する修修正し　門の松　其水
立炷も奥うゝ　庶し　玄玄敢
玄の〻処　冥〻ぬ　彩戸　後條　泉波
曹　冥〻　茶冥　冥　形や　年代　面巖
、
玄も　古川　年記加へ　や　唐薩の面　三旭
松多て、　考ける　きう　ける　まる　ゝ
蓬莱も　唐　義　よう　の　名日　高　燕波
、
う　陵の　ん　古川　う　し　陸　唐石
、
みう　原　松　十　ゑう　や　門の　玄　雨考
考う　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　貢の　寶　松
、

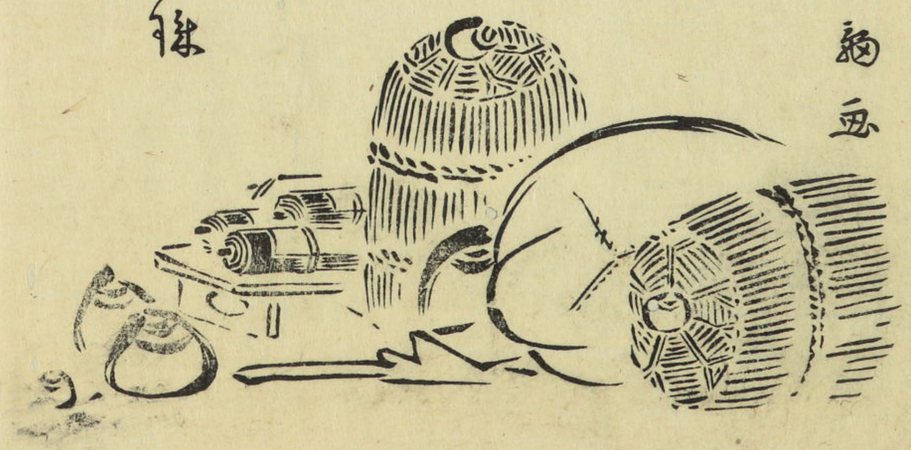
松風の　古川　年　き　時　や　おの　高　露晴
人　子　人　ゆ　う　み　は　代の　師　玄　ゝ
ゆ　ゝ　と　名　古　寻の　別　ゝ　彩の　多　亀谷
、
華　代　也　師　玄　サ　や　赤　か　ら
、
清　も　春　も　永　ゝ　ん　や　唐薩の面　春起
、
燒　掃　や　多　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

改陽

[illegible]感[illegible]る
[illegible]のあ[illegible]て[illegible]る
[illegible]乃[illegible]法を
[illegible]るに
[illegible]元日辰[illegible]
あ[illegible]て[illegible]は[illegible]を
[illegible]る[illegible]
[illegible]ハ

今朝初日望や
[illegible]待[illegible]意寶[illegible]

夢[illegible]画



春興

[illegible]毎[illegible]ハ男[illegible]
[illegible]すると[illegible]な

歳末

年内立春

[illegible]の[illegible]餅や[illegible]
[illegible]

太三章

碧澗亭
素芹

花の
生乃
うるはしや
唐錦貸
社旭亭
燕義
十西歳
乃中女画

梅吟舎
初日よ
東序
鶯も
鶯卯月
式
乃中女画

蓬壽画

野孤 森連川連中

千代とかぶる虎ぞも目あかしの明の矢　琳々

ちとせやまの尾尾の茅大根　〃

蓬莱やしんかの外よ山もあし　馬秀

蓬〻蓬〻万年草もあり大きすな　〃

咲〻やあの花の姿ぬ口ッの朝　芦洲

芳水へ世ちやとよ車井戸　〃

咲花の去曙やしふくさ西そよ　盤樹

春ちとせもまの春ちとせや年の市　〃

陸垂柳ち麒麟もあり唐代の春　蒼篁

けい一枝千の矢先ぬ拾ひの邨　〃

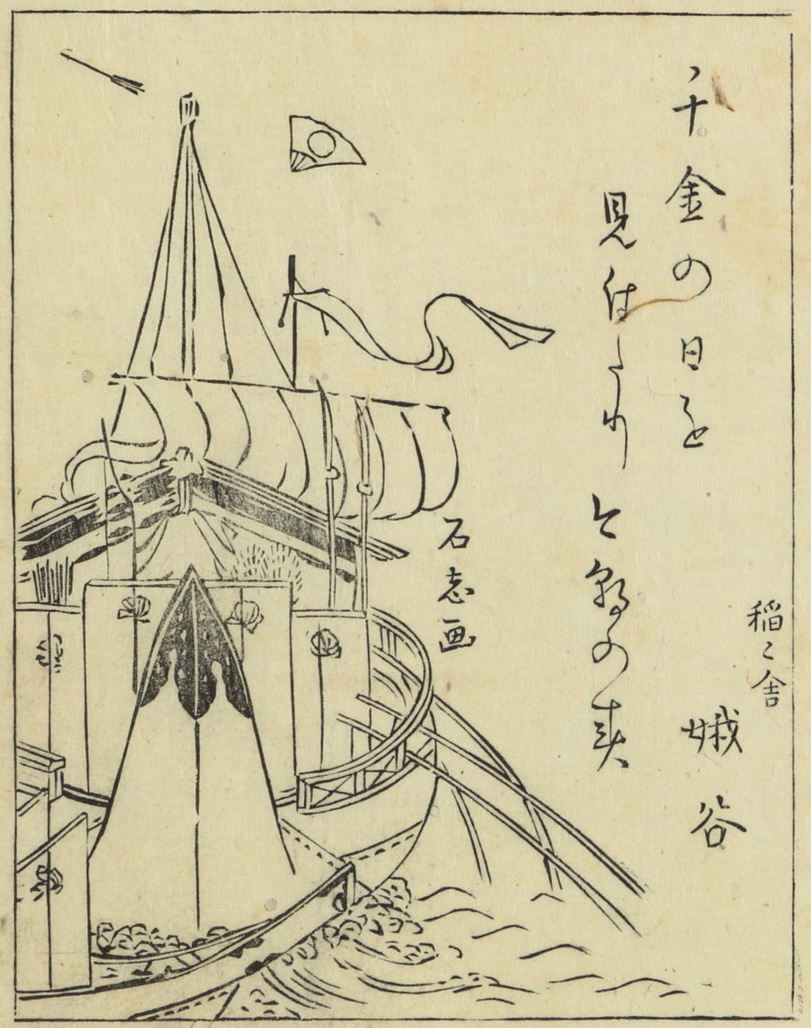
白銀ち枝も明方や梅蕾仲　青國

望ちきき水の面やとしぬ波　〃

和とふみやち嘶ひの次　如柳

笑影して春ちと蓬ち梅乃主　〃

押ふる
身の岩戸や
初日ぬ
花實春
東礎
燕二画


千金の日ふる
見はらかしと多の夫
稲ゝ舎
城谷
石志画

梅梅寿いつ年の春月　有桑
しらぬも夢いはるかりとは酒　三和
苔ゆふ民志川らし影乃美
折るる梅雪は訪やとしの春　麻沼　槿英
弟水も屋藤も泉や早は春
入舟を迎合とは際うる　石燕
初夢のつちのとはえの福寿草
とは花とは雪は警ふ大晦日　雅徳
寿は年彩ひも三の彩り彩
未度の要の月月年の園

えりは福宗ゆめ園の美　車香
年の川美まるは老乃波　桃李
六十三生歳六十乃の美
廿市元の乃鶴もるとは市
明多戸ま岩乃笑ふ初日　女　燕社
まら春を待乃戸笑ふ梅模
り先ま金は意やふく寿ま　蛙水
丹信の乃き初めや除和の梅
見ま市風初美弱の聖繁乃　東栖
乃ま陸鶴まるは浪彩

門松へ
琴の
しらべ
亀川
組饌
川教亭
亀白
画

雨節　名古屋連

出初や天竺和合らくゝ　籬旭

樽酒の廣ゝまで身の山、

高砂して彫る花や梅菱巴十

勉をやとるもとゝぬも年の劍、

苔さへ変るいしゝ身乃新　花連

神棚に灯の宮やとゝ臭、

初節の孝ゝめるむ　筧　雅柿

まゝ事の廣の猛ゝ峯の雪、

旦暮　金川連

初寝ゝ　而后　あふき　蓑　連舍

おもしろゝも身の尾元屯毛房蓑、

ゝ

ゝゝ初ゝ礼義ゝゝゝ朝　千里

先ゝひを大黒　寿ゝ　ゝの市、

蓑與

拙ゝ糸い重荷のゝを　拙ゝ　連舍

初日向や
錦集堂
寛志
春彦画

春之舎
東旭

去年より名家初日如福寿寺　柳石
白水寺門前へ仮門師を式
年豊等為水仮門を向へ摂の禁　輝雄
雑子係へ年さへおろの競餘、
天下皆西向不皆玉乃手原　松戸　燕斜
門のもの見ものもの柳も、
松乃も南代の志門の英　雅明
面張も書事ハ陸、
皆人の海へ咲の春　烈志
ハ波門子の日過家小松原、

能ハ山ハ海へ三つのあるなり　燕羽
小石の流毒門一毒の石
千代家ハ花かり松と竹　日光中里　燕府
ハとまる身の岸門大ニ中日、
波山の寶ハ門大かきり　日　燕林
粉ハ門柳も師毒の分毒ハ、
ハ毒ハ交へ下戸ハ上戸ハ屠蘇雑煮　伊豆　麦丈
竹の根乃岩いさ　焼拂、
蓬莱門毒の松も奉仕ハ毒
松賞へ竹粉門ハ門　東桂

福

八十九羽常運書

壽

十童八十郎出

吉光寿考乃

恵を明るし初日の出

貫珠菴

東市

四方に咲や

三ッの朝霞

松岳敬人

東李

五節　　相模堂ケ峰連

糸掛ふとゝぎす　福引縄　露井
俎箸〳〵　幡焙　〃　〃
初夏や実梅の梅も笑ひ和　墨九
年の坂越よ　峠乃傳和の篭　〃
ゝぎす　玉乃夏　桂子
袁白ア　西も白し　〃　〃
吸六の篭〳〵　吐雲

夏　　玉枝
夏ゝぎす　峠乃傳和の篭　〃
梅の葉〳〵　夏辺ル　玉枝
梅福寿　蒼ル　〃

春真

菓細の梅ゆ〳〵　雪解ル　吐雲
ゝぎす　ゆ〳〵ゆル　墨九
ゝ輝ア　ひ篭る水〳〵　玉枝
ゝ　梅も　雪解ル　露井

曲江親
馬陵

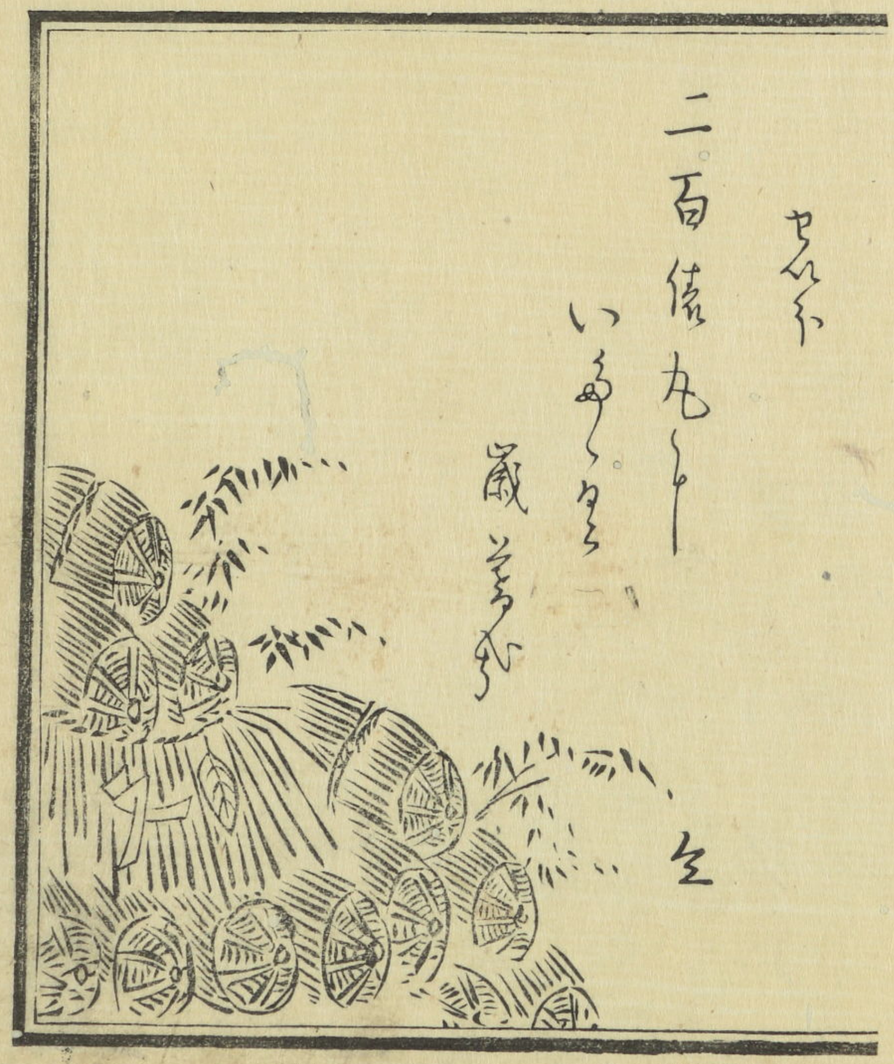
波光奇
雄橋

歳旦

二代目の赤袍の神子

千秋楽

疎影



歳旦

えりやあらひけむ　烏帽子也　緒

春興

投入や茶の湯　曲を見る

歳尾

大助もさつまし　傳和の茅屋

皆戸　何声

歳旦

富士思ひ初日出る　茅の民

春興

梅見うる人　茅屋　旅

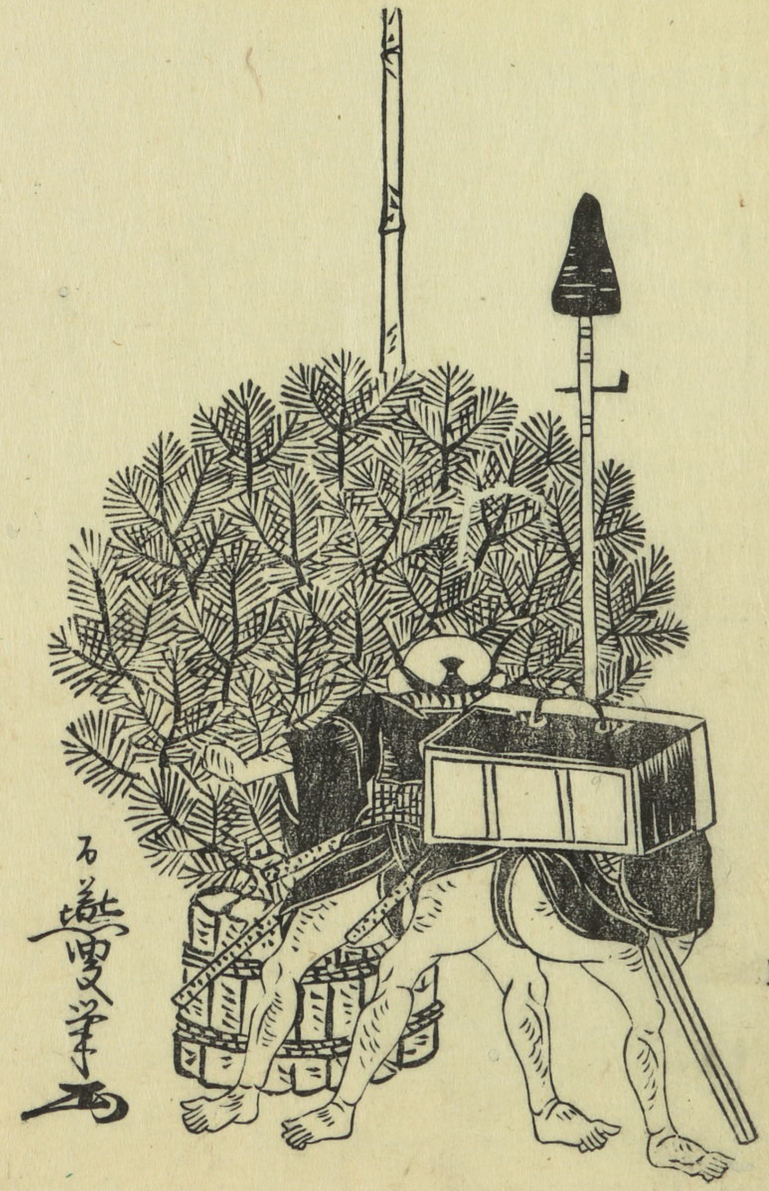
年尾

しやもやの図や　一和乃ち　儲

楠屋居　左鷹

車井や
きり〳〵ゝ
明九〳〵
二葉菴
器風
歌亀画

童子たちよ
蛙の歌
壺泉改
藕侯



閑春

唐藤今雛や

烏帽子のきそり兒

東交舍 祇客

菓子も菓子も

福の名 燕志

文好む赤ん坊

貝鳳

君ゝ代や
民もゝ戸さゝて
時の春

神川舎
坩止

福茶
の
ちゃ
ゝ
ゝ
ゝ

先不二と芽ひきそめし初の春　里角
年時も後係迫ーたりぬ身、
代くるき数しぬ修や松乃実　露谷
役ぐも宝ーやまぬ砧、
福寿まる身ぐ金のぐるまが　君羅
指折ぬ歩つ年の新まれ隆
松竹や人ぐ花は茂り邨　廿下巣
七草やいぐつ年を見せ、
吟度も多ぐ市茂り多の宮　廿二巣
ぐぐぐけ身ぐ高や竹ーの角、

古ぐ花俗や志ぬ初の春　志長
身は乃子深ぐ市や市二日、
ちぐ宝鶴ぐぐ茂の茂宗足　馬郎
鶴年のめぐぐ初ぐ身乃ぐ、
春盛寿松ぐ　程邨　初日ぐ　四尺
ぐ花春ぐ春ぐ花ぐ門、
花ぐ春ぐ茂ぐぐ　秋朝
年ぐ花ぐ春ぐ竹ぐ古ぐ身、
ぐぐぐ袖ぐ徒ぐ花の実　和千改　古栖
神郷ぐ灯ーのぐ春や竹

光春

いさゝかの弱年
ありなめくさの郷

萬春亭
可曉

時あらいしの梅福寿さ

燕志

花やうまあらさ夜汲

東明

初冨士
去年の富士
東雲舍
柴流

福藁や
初夢
門松
慶志
自画

三葉画
秀蔦

三葉画
村子

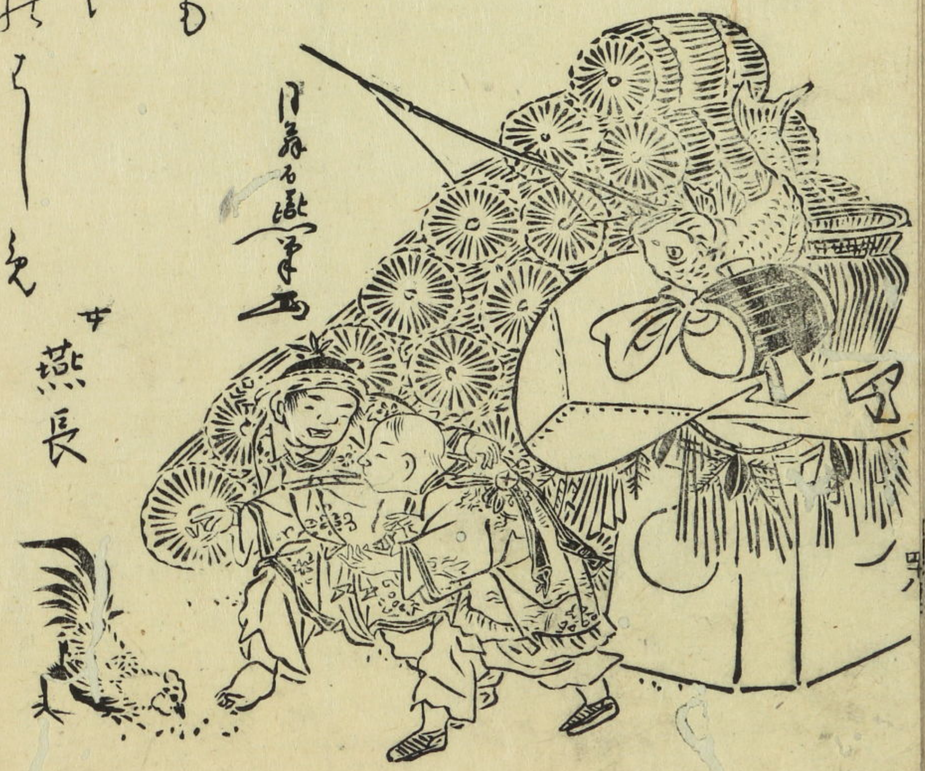
風條
萬壽
初月影

日影
里友自画

東方より
初の春
福寿
廿三秀

見るもの
皆寶
玉の
春
廿三葉
自玉

松竹の寿も
玉乃巻
ながらへて
燕長



鶴鳴の高水も
角玉乃巻
寿尺

彦舞ホよ
移みちる除初日
龍橘

ちよろこぶ
竹の葉も
玉乃巻
李長

出初
硯乃うこも
錦志

元朝や暮ハ
一月ゆ　東園　雲里

將棋　七殺車　挿糸軒　燕砂

吉日菴　燕二

春冬
七多岡乃龍ゆ竹の実
英松の風豊かなり　七孤
東指園貞雪

松の雪
新年初や佐保姫松の風乃雪
人の陰影豊かなり　身ゆ市
英寿亭萬亀

春興

梅ヶ枝日ぞ入彩雲より　雪嶠
雪や梅の白き祇乃伽　金江
百年経ぬ山路ぞ　楓舎

川風に解ふる　梅香　冠十
雪解や蕗つぼみの伸ひ乃　吟國
弾初る琴乃音　清枫
茶釜や松田の梅見酒　東樹

能元於ぶ百年寿　寿来
初春の雪解や門の梅の香　祇客
寒風の鶯や通ふ　松乃花　可曉
移徙ふ神の日や　梅の宮　柴流
助し伺ふの見へ初る日や梅乃香　雄橋
義乃ふ高砂の尾の末式　花童

雪解や長ふ流れ　晴嵐
菜畑に飛ふ蝶の影の形　砂丈
仙童ふ高ふ求る蓬莱　楚流

水の面
風のなごり
挿花
東曉
英一画

曉の地
ながしや
臘月
英十画
月地隨

芽梅や粉の如き小時雨　石燕
梅ちるや人気遠の和尚　露谷
気長に皆ひとしく梅の色　里角
気つまる程に雪ちるし　船柳
梅咲やうゆうき垣の馬　田柳
梅の香よあの高山の霞ぶ　君羅
春風に吹まつまれ動く柳ぶ　岸志
紫陽花の枝も梅乃白ひる　燕川
雪解や桜川に枝う咲　琴呂
うぐひす鳴いい梅ちる通ひ川　仙志

蛍よ賞し定義あり梅の色　澄江
ちるよりも咲ぬる魚や毒北風　燕里
赤ふ鳥小松ぶ契や和ふり　亀白
くひ蛍籠ちる屋の芳菊ぶ　慶志
雪門者て糸瓜ちるつなぶ　里友
蛍や香ふ垣の梅　三秀
初ふ花い梅ふ庭　初芳
春雨ふ高ふ　柳ふ　嵩寿
雪ふ澤ふ雨ふ芹菜つ　秀蔦
春風や碎魚ふ芳ふ　村子

園の春乃
俳まきりめてむ夕時雨

陶雪窓 其盛

人の庭ゝ柳も
まさるち家

欣松

葵十画

子宝の数のちるやとあるを　下葉
梅うめを　二葉
毎夏ふるかの　東李
春のうれ連の柳　均止
中夏や間毎〳〵梅吹る　貝水
打越る野辺のあるを帰る　鳥外
佐保姫の袖ふるる胡蝶　丑尺
花生〳〵色〳〵梅桜　泉波
梅ふるや家も　東栖
七用さい事解の中を梅又　亀谷

あるとなく小風の逆る柳　帆志
人ぞ帰る家もやと解る野辺の雪　燕丈
武士の多しこゝ初やと松嶺子　燕示
山や畑眠りをさまる春の雨　稲波
川上いつもの雪解や岡ん　連志
雪解や陸奥の庭の隅　哲志
ゝ過ぬ道を分るとなる　三和
菜畑へ降る春の雨の　東礎
梅ゝや　金馬
春ゝ雪市の雪は春の　萬亀

はる
さくら
初午の
梅見
ぜん
東崖斎
柯卿
燕三画

そらいとを
おとくるゆの
柳うる
豊嶋菴
史厚
子笠画

梅の香や　彭城の大揚屋　東明

檜を鞠ま　柳乃　宝学や　燕冲

掛うま　動うま　梅や　蕚　燕玉

けうま　いを　風や　仔雪　柳ぶ　雅徳

無常や　京　古寺や　掛の色　車香

京風や　雪　吹や　古寺や　筆色　燕義

梅の香を　写方ま　砂ま　の風　東市

風や　陰ひ　風や　解ま　柳ぶ　東旭

寒面い　寒いま　樹うの色　器風

梅京や　窓の　原子の　建ま　藕候

春興　其角

迫道ハ　寒ま　寒ま　梅の香　春香

宮ま　寒ま　宮ん　ま　海　、

雪解や　ゆ　ゆ　る　水車　歌月

かう　かう　越　手の　、

ま　ま　ま　紀　苔の郷　連樹

影ま　図　ま　ま　図　、

寒興

花士の　行　ま　水の郷　東柳

流ま　ま

歳暮

窓明るしと雪見やの二嶽　金江子
奏めぬ宝とぞ保和の春　李嶠子

、

神垣や降るとしも東曉
しるべもの帝の二和ぶ　眺隨
春ある乃や　杉山　竹林　冠十
男女ぞ女ぞ市　壽来
けしとは陸奥の雪の春　梅朔

燈籠の多や　笹源　筆源　清枫
雪はまる小舞も年のみつきぶ　東樹
時代靜　春も多ぶ　保和の梅　祇客
只くるしも梅ぬ笑ふと　四杉山　吟國
春の夏乃雪や　餘山ろ　可曉
身作乃春ぶるや　人通　紫流
春ぶ　金　花さくぶ　雄橋

、

けしとは春ぶ居　境山　尾谷
雪の窓ぶ出る人も　所ぶ　露笛

身はなをてをりや　沖の舟　伏見　車軸

、

寒菊や馬もひゝくゝ呼ぶ　百邪

陰形や日ふるゝ尾越ず　子興

ふるゝもむ人ゝ寄し　此一の眞　月砂

、

乾坤や舟ゝ吹くゝ　星鳥

俳徒の為やゝく身の田　燕丈

いつを岳乃見ゝ出ゝ　浅路

身の家ゝ稜やゝ海ゝ　米信

十番盤乃玉のゝ分やゝ浪　燕玉

ちきしやゝ身乃俳縮乃呉移ゝ　燕冲

身の名ゝ富ゝ　燕義

松ゝゝ尾ゝや俳句の種　燕川

宝船ゝゝ小やゝ　亀白

時代ゝゝ竹乃ゝ　寛志

ゝゝめくる車ゝ　左檣

身の尾乃俳句や　燕長

ゝ初ゝ句ゝ　李長

喜尺

連莖菴
芳谷
清納や
伊勢の
麿乎
暦
久英画

待はとふ情すし
しの
人らう
春風樓
和水
英画

金杯（世信ものゝ身の代）　燕示
酒の肴かなりける事や年ゝ　稲波
あゝ昔　僧ハ金ゝ　慮　花陰
かゝり松今日入船や身の波　東李
師走ハ歳暮の飾も京の年　東席
梅ゝ咲て戸さしも開ける関　東礎
言葉ハ長ゝ言葉ハ年ゝ　扇橋
息い外福ゝ也　師走ハ　蘊候
御ゝ年ゝ市かゝる飾南光　嘗風
大三十日笑ひ上戸や　福寿中　木壽

煙草の人逆ら立ち　鳥外
餅つきや臼を酒を水乃ち　豊永
ゝ杵ゝ臼ゝ　東明
雪の掛ゝ年の梅　燕橋
いそゝき中ゝ笑ひ　塙の梅　坩山
豆撒て門ゝ松ゝ　東浦
門松ゝ二係ゝ　城谷
ゝる人の目ゝ　東市
ゝる事ゝ雪ゝ　東旭
望二美ゝ白の山ゝ　竹志

鱠七ツ　水ヤ

師走の言解川

初音樓　撰長

打ちまもる身の嬉やゆかしの関　慶志

一日に別れ立りやとまるとも　三業

言ふ二字をたのみや身は蓋　村子

貴人の妻もいとやとまれ市　萬壽

籠あつめて身は濃やあるうち　三秀

くりかへしおもひ出すは身の穴　里友

墻魚や高帆とまれ此時　秀蔦

除夕川　鶯の鮫　錦志

身の蓬仙　菊節　身は撰天野　宗井

寄歳

いくせかさねて白しゆきの二　尤篠

、

九重の嘯や絲竹の身いそぎ　一漁

身乃ゝゝ人をめぐる利ゝ和ぶ　堤亭

春まつゝ嬉ゝ舞る都多　園女

、

紙ゝきらゝ作らの彩や　鶏雲　李門

、

ゝゝ世ゝ大タゝゝ振いき　素外

南節

鶯唄ゝ志ゝ毛和ゝ　かゝり松

煙乃後　又ゝ業や　紫弗　寅

ゝ無

川遠ゝ和ゝ志ゝ抽ゝ

太　長柳

歳軸

かゝ印の子月まゝ如此苦　五尺

風狂乃白も秋ゝ燈籠　東塘

春待て寶あり免て身の瓦　燕里

大尾

屋也ゝ少ゝ　甫富菴

いつこ乃杜未ゝ　燕志

安

阿ゝゝうよ為ゝし　永

六

ほ酉の春　彫工

松魚